

郷土資料館だより

Vol.46 No.1
2023.7.15

企画展「学校の美術品展 Part 1」開催中

- 会 期 令和5年7月1日(土)～10月1日(日)
- 会 場 郷土資料館 1階企画展示室

小学校の玄関や廊下、会議室などにさりげなく飾られている絵画などの美術品。これらはその学校の卒業生や地域の人々から贈られ、今日まで受け継がれてきた地域のたからものです。

学校の美術品は、学校に通う子どもたちがいつでも見られるようになっています。一方、学外の人が見る機会ほとんどありません。本企画展では、市内に14校ある小学校のうち、7校(東小・西小・錦田小・徳倉小・中郷小・沢地小・向山小)に所在する美術品を展示し、郷土ゆかりの芸術家の作品に親しんでいただく機会とするものです。

●企画展で紹介する郷土ゆかりの芸術家(敬称略)

大沼貞夫、細井繁誠、小池タケシ、北山敏、長谷川彰一、下山昇



北山敏・北山早苗《飛びたてふくろう》

制作年：2013(平成25)

サイズ：110.0×160.0cm

西小学校蔵

様々な自然素材と技法を組み合わせられて構成されたCG(コンピューターグラフィック)作品。今まさに飛びたとうとしているフクロウは、落ち葉をスキャンして取り込んだ画像の形や色を組み合わせられて表現されています。三島市出身の画家、CG作家の北山敏氏と妻・早苗氏による作品で、市内の小中学校、発達支援センターに寄贈されたふくろうの絵画、12点のうちのひとつです。

企画展「三島ゆかりの文化人たち」報告

- 開催期間 令和5年2月11日(土)～5月28日(日)
- 展示資料数 64点 ●入場者数 14,924人

三島周辺で活躍した、江戸時代から近代にかけての文化人たちを、彼らの作品等を通じてご紹介した企画展を開催しました。

長年地域史研究に尽力されてきた郷土史家・関守敏氏のご協力のもと、川原一瓢・孤山堂卓郎・山堂凌頂・瀧の本連水・並河誠所・秋山富南・贅川他石・呑山らの業績と、彼らの手による書や短冊、絵画などを紹介したほか、「三島ゆかりのレジェンド」として「俳聖」松尾芭蕉が三島宿へ泊った時のことを記した手紙(パネル)なども展示しました。

- 関連事業 展示解説 3月18日(土)、4月8日(土) 各日2回 参加者数：9人

三嶋大社の古文書をよむ 第18回

◆徳川家康の伝馬の朱印

慶長6年(1601)の年の初めに出された、「徳川家康による伝馬朱印の通達状」です。一般には「徳川家康伝馬朱印状」と呼ばれています。前年9月の関ヶ原の戦いで勝利した家康は、天下の実権を握り、大名の配置換えを行いつつ諸制度を整えて行きます。この文書は街道と通信・輸送の整備に関わるもので、これから徳川家が使用する、伝馬朱印の印形が確認できるよう、街道の各宿場に通達したものです。文書には「通行用手形にこの朱印が捺されていなければ、伝馬を使用させてはならない」と書かれています。裏を返せば、宿場では朱印手形に捺された印形とこの印を突き合わせ、同じ朱印が捺されていれば、馬と人足を無償で提供しなくてはならない、ということです。

さらに細かな規定は、この朱印通達の文書とともに出された「伝馬の定書」からわかります。三島宿の分は現存しませんが他の宿への定書から内容が知れ、それによれば、各宿は36疋の馬を常備することが定められています。

この政策によって、東海道沿いの宿泊輸送設備をもつ集落のうちから、いわゆる宿場とされる集落が選ばれ、今日でも知られる江戸時代の宿場町が確立していきます。後に五十三次と呼ばれる東海道の宿場町はこの後20年ほどかけて整備されていきます(五十三次と言った場合は京都まで。大坂までの宿を含め五十七次とする場合もあります)。また伝馬朱印の無い一般の旅人に対しては、駄賃をとって人や荷物を運ぶことが許されました。つまり無償の人馬供出に応えることで、営業行為も許されたのです。

ただこの文書の時点で、徳川家康はまだ将軍ではありませんから、形式上江戸幕府も開かれていません。家康は豊臣政権下の一大名です。形としては、家康が自分の領国以外の宿場にまで影響を及ぼしていることになります。もちろん、豊臣政権を率いた石田三成らは既に亡く、政権の屋台骨は崩壊していますから、家康の強引な手法を咎める者はいません。つまり幕府成立前ながら、すでに徳川政権の施策が始まっていると見て良いでしょう。

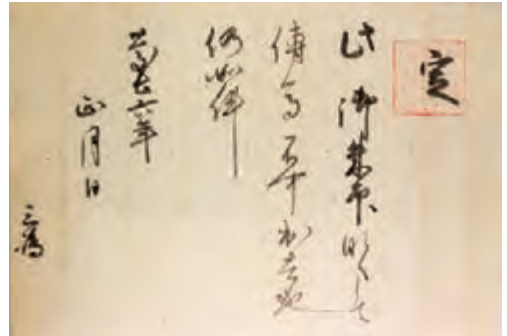
こうした状況下、東海道をいの一に整備する理由は、大坂城にあった豊臣秀頼の存在に帰結するでしょう。関ヶ原の戦い直後の家康は大坂城に入り、豊臣秀頼の補佐役という姿をみせつつ、実質的に天下の政治を取り仕切ろうとしている時期です。だからこそ、本拠地の江戸から関西までの幹線道を整備し、徳川氏のための公用伝馬の制度を整えたわけです。これに付随するように、関ヶ原の戦いまで、東海道筋に居を構えていた中村・山内・堀尾・池田・田中・福島らの大名は論功によって大きく加増を受けましたが、遠く西国などへと転封させられます。東海道筋には、徳川氏の親族や譜代家臣らが配置され、家康は関東から関西への道のりを確保したのです。

なお、この東海道の整備ののち、中山道・日光道中・奥州道中・甲州道中など、江戸日本橋を起点とする五街道が整備されていきます。

◆東海道の名称

東海道という名称は、古代以来の地域区分で、伊賀国・伊勢国から常陸国・下総国・上総国に至る東海地域を指す場合と、その地を貫く幹線道である、いわゆる東海道を指す場合があります。この幹線道を東海道と一律に呼ぶようになるのは、家康による街道整備以後のようです。中世の史料では海道と書かれていることが多く、例えば、第2回で紹介した足利尊氏禁制でも、冒頭に海道と記しています。これは一般的な道全てを表現した言葉ではなく、後の東海道に当たる街道筋を示したものとみられます。尊氏はこの時、宿での人馬徴発に関わる取り決めを通達していますし、東海地域に自己と近い者を守護や守護代、国司や目代などに就任させています。建武政権のもとにありながら、京都から関東に至る経路の保全を、おそらく独自に行ったとみえ、家康と相通ずるものを感じます。

(三島市郷土資料館運営協議会委員・奥村徹也／三嶋大社宝物館 学芸員)



上：慶長6年正月日徳川家康の伝馬朱印の通達状

定(朱印)
この御朱印なくして伝馬出すべからざるものなり。よって件のごとし。
慶長六年
正月日
三嶋



左：徳川家康の伝馬朱印(拡大)
馬と人足の絵が印象的です。
駒曳朱印とも呼ばれます。

三島の歴史とジオポイント・27

—— 伊豆四ノ宮・広瀬神社 ——

三島市立公園楽寿園(一番町19-3)一番の佳景は「満水の小浜池と楽寿館」です。しかし、最近40年間で小浜池が満水(水位1.5m以上)を記録したのは8回、平均5年に1回です。

最高水位が1m以下(過去40年で23回)の年の池底には、一年中、楽寿館側の三島溶岩流(約1万年前に富士山から流下)の高まりから流出した二次溶岩流が数条確認できます。

小松宮別邸造営(明治23年冬)以前には、その一つに溶岩の切石で土手を築き、先端部に小島(宮島)が作られ、ここを境内地として「伊豆四ノ宮・広瀬神社」が祀られていました。祭神は穀物の神である倉稲魂命(うかのみたま・お稲荷様)とされ、小浜池湧水の守り神です。

小浜池は小浜用水と源兵衛川用水の水源地ですが、比較的高所にあるため、昔から湧水量が安定せず、記録が残る文化元(1804)年からの11年間だけでも、5回の湧水不足があり、うち2回は広瀬神社で「雨乞い」が行われ、1回は「池底を草履で歩ける」状態でした。

当地が小松宮別邸になってからは、島へ渡る土手は撤去され、架け橋が作られ、島の北側には、花崗岩製の遊興用船着き場が設置されました。同質の花崗岩は園内各所にあります。

これらは江戸城築城時の石垣用材として、瀬戸内海方面で採石され、海運中に駿河湾沖で難破し、沼津の我入道付近で沈没したもの(破船が伊豆西海岸沿いに北上する黒潮の分流に乗り、我入道沖で富士川方面からの沿岸流に行く手を遮られ、沈没)とされています。この石材を小松宮様が京風庭園づくりの庭石として用いたのでしょうか。

祠の横には、長径90cm短径60cmの緑色の岩石が、場違いのように置かれています。これは日本を東西に串刺す様に分布する三波川変成帯(約1億年前、日本列島が大陸の縁辺部だった頃に成立)から産出する緑色片岩です。宮様と交流があった、遠州中泉(現磐田市内)の游侠大庭平太郎が、天竜川で採集し、別邸に献じたものです。

文献では20個とされていますが、平成3年に行われた市指定天然記念物候補の調査では(結果は不採用)、楽寿館と梅御殿の庭石として10個が確認されました。宮島の緑色片岩は11個目です。

小松宮別邸以降、昭和27年に楽寿園が市立公園になるまで、広瀬神社は隣の浅間神社に遷座していました。市有地となってから再度遷座されたようです。その後、境内には、三島宿内の東海道にあった三島溶岩製石橋の一片(長さ2.7m)がベンチとして設置されています。

当社は、市立公園内にあるためか、鳥居は無く、祭りも行われず、檜皮葺の屋根は荒れ放題です。修理する手立てはないでしょうか。



広瀬神社の祠



緑色片岩(巻き尺は50cm)

(三島市郷土資料館運営協議会委員・増島淳)

向山古墳群 第16号墳 第3回

—— ぜんほうぶ こうえんぶ もりど 前方部と後円部の盛土 ——

前回記述した「向山古墳群 第16号墳 第2回」の続きになりますので、所在地や時代・時期及び墓壙と石槨などの説明は前133・134号をお手元においてお読みください。

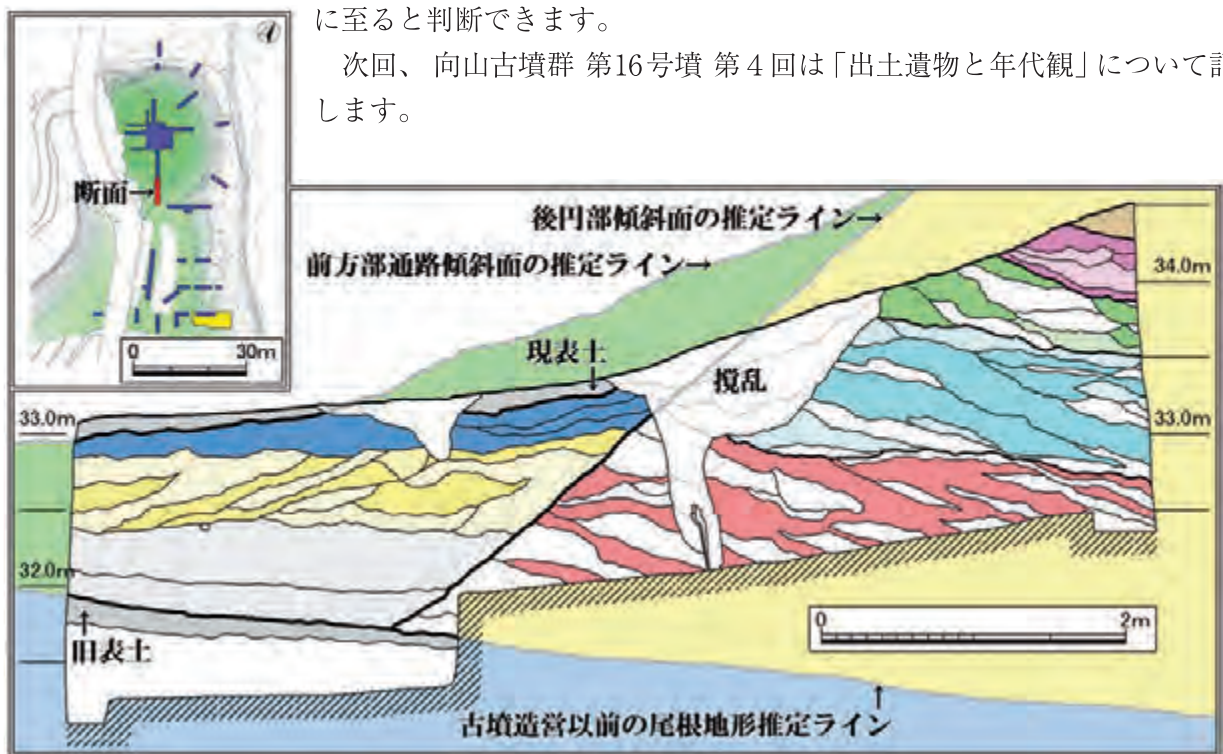
さて、向山16号墳の前方部と後円部の盛土の状況を示す断面図はその接合部の堆積により墳丘の造り方が理解できますので、断面位置図の(赤)部分の垂直面を下に図示しました。前回と同じく作業に伴う地層のまとまりを工程ごと色分けして説明します。

まず、図面は大きく3つの範囲に分割でき、古い順に(薄青)は古墳造営以前の尾根地形で北側(右側)へ徐々に標高を下げています。その上の(黄)は後円部の傾斜角約45度の盛土で、標高は36m以上に達します。最後に(薄緑)は前方部の盛土及び墳頂部につながる通路の盛土となります。

さて、古墳はその造成前の表土を確認することが重要であり、自然堆積と人工の盛土の違いや旧表土の時代・時期を決定するために遺物等の検出に努めます。層はその時代の表土ですので植物の腐食が繰り返され黒色化して確認されます。後円部の盛土ですが一番下に(赤マarmor)の第1グループ、(水色、緑、紫マarmor)の第2グループ、(茶)の第3グループと連続します。いずれのグループとも白色の箱根山火砕流土と褐色の中部ローム土が繰り返し盛り上げられた層として確認されます。断面を観察すると色調の違いや重なり方から一定の高さで面的に分離することができ、その整地したラインをもって色分けしています。各グループは約1.6m単位で盛土され、3グループ合計で約5m以上の盛土と推定されます。後円部外周の傾斜面は、円錐に削り出された面をなしますので、多目に盛土したのちに削り整えられています。

一方、前方部は(薄灰)の第4グループ、(黄マarmor)の第5グループ、(青)の第6グループと現表土に分けられ、第4はかさ上げを伴う整地層であり、水平レベルで前方部形状の測量等を行うための層と考えられます。第5は後円部に向けて傾斜する層の集まりで整地されています。第6はほぼ単一の中部ローム土で、前方部表面の色調を整えた層であると同時に通路傾斜面まで盛土し、後円部頂部に至ると判断できます。

次回、向山古墳群 第16号墳 第4回は「出土遺物と年代観」について記述します。



↑ 断面位置図 (1/200)

前方部と後円部の盛土 (1/50)

令和4年度 郷土資料館事業報告

●企画展

展示名	実施期間	主な展示内容	入館者数
「三嶋暦 武士の世の暦」	4月23日(土) ～6月19日(日)	三島宿の土産物として知られた三嶋暦と、その発行を担った暦師河合家を紹介した。	9,779人
3市博物館共同企画展 「このへん道中いまむかし —富士・沼津・三島の観光—」	7月16日(土) ～10月2日(日)	富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会主催の巡回展として、近世・近代の3地域の観光と土産物の歴史を紹介した。	10,791人
関連事業：よりみちクイズ300人、展示解説(8/13・9/10)2人			
「古代伊豆国 —国府と国分寺—」	10月15日(土) ～1月29日(日)	古代の伊豆国について、国府・国分寺関連遺跡等から出土した考古資料を中心に紹介した。	16,433人
関連事業：古代の国名クイズ418人、展示解説(12/11・1/8)21人			
「三島ゆかりの文化人たち」	2月11日(土) ～5月28日(日)	滝の本連水や孤山堂卓郎など、三島ゆかりの俳人や文学者の作品を紹介した。	6,384人
関連事業：展示解説(3/18・4/8)9人			

●その他の展示 三嶋暦師の館、西小学校郷土資料室、生涯学習センター日本文学資料館「茂吉をめぐる歌人たち」

●企画展

講座名	開催日	人数	講座名	開催日	人数	
郷土教室	こどもの日体験デー	5月 5日(木・祝)	95人	江戸時代の三島宿	10月 1日(土)	32人
	古代の暮らし	5月 7日(土)	75人	楽寿園の自然	11月 5日(土)	55人
	江戸時代の三島宿	6月 4日(土)	14人	昔の暮らし	11月 5日(土)	93人
	江戸時代の三島宿	7月 9日(土)	28人	ワラ細工	12月 3日(土)	90人
	機織り体験	8月 6日(土)	10人	リリアン編み	1月 14日(土)	14人
	昔のあそび	8月 6日(土)	47人	楽寿園の自然	2月 4日(土)	61人
	紙漉き体験	9月 3日(土)	47人	江戸時代の三島宿	3月 4日(土)	34人
郷土教室実施回数 14回、参加者 695人						
文化財ボランティア活動						
◆石造物調査の会	年間8回実施 延べ77人参加 毎月1回、中郷地区(継続)					
◆古文書整理の会	年間12回実施 延べ99人参加 毎月1回、的場贅川家文書(近世)の整理(継続)					

●団体見学

19件 1,133人(市内小学校15件、市外小学校1件、その他3件)

●資料の収集、保管状況

令和4年度末現在 収蔵資料総数 46,348点(民俗7,681点、歴史37,746点、美術883点、自然38点)
令和4年度新規受入資料 13件(内訳：寄贈11件、購入2件)

●刊行物

「郷土資料館だより」132～134号
『郷土資料館研究報告』14号
『古代伊豆国—国府と国分寺—』(企画展図録)
『源頼朝と伊豆—史跡と伝承—[改訂版]』(平成28年度刊行、在庫切れのため増刷)
『三島宿関係資料集』12(三島 問屋場・町役場文書)

●令和4年度 開館日数304日 入館者数50,677人

三島地域資料調査会 活動報告

地域の歴史を明らかにする上で欠くことのできない「地域資料」は、博物館の中だけでなく、個人宅や公民館、小中学校・幼稚園・保育園などから見つかることがあります。それらは、その重要性が知られていないために、人知れず散逸、消滅してしまうことが少なくありません。

そこで令和3年度、郷土資料館・徳倉小学校・東小学校の3機関は、地域資料を把握・調査し、新たな保存管理・活用の手法を開発することを目的として、「三島地域資料調査会」を立ち上げました。文化庁の補助(R3「地域と協働した博物館創造活動支援事業」、R4「Innovate MUSEUM 事業」)を受けることにより、令和3年度は①地域資料の現状と重要性を伝える周知活動、②所有者情報の把握と調査法の構築、所有者と協力する仕組み作りを進めました。令和4年度には、それをさらに持続可能な活動とするために、①調査・保存・活用を担う担い手(ボランティア)を募集、養成講座・スキルアップ講座を開講し、②博物館外の情報発信・収集の場として出前講座を開き、地域資料に関する認知度を高める活動を行いました。令和5年度よりは、本会の事業を郷土資料館が引き継ぎ、地域と協働で地域資料の把握・調査・活用を進めていきます。

●令和3年度

	事業名	会場	開催日	人数
講演会	文化財危機一髪！～うっかり消えちゃう歴史資料～ 第1部：身のまわりに眠るたからもの(講師：西村慎太郎氏(国文学研究資料館・総合研究大学院大学教授、NPO法人歴史資料継承機構代表理事)) 第2部：学校に眠るたからもの(講師：和崎光太郎氏(東京福祉大学准教授、学校資料研究会代表))	市民文化会館 ゆうゆうホール	12/12	45人
出前講座	あなたのおうちの文化財 対象：①西部地区自治会連合会 ②自主サークル「はじめての古文書」※ *教材として箱根田遺跡出土人面墨書土器のレプリカを製作	①西地区コミュニティ防災センター、 ②郷土資料館	①2/25、 ②3/13	29人
ミニ展示会	学校にあるたからもの一東小と徳倉小ー *パンフレット『学校にあるたからもの一東小と徳倉小ー』を発行	東小学校	2/2～ 2/18	-

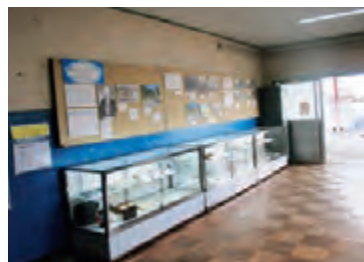
● 地域資料の把握・調査…民間所在資料：個人宅3件、学校所在資料：小学校2校(悉皆調査)
※：当初、小学校での開催を予定していたが、コロナ感染症のため、郷土資料館で自主サークルを対象とする開催形態に変更。



講演会(講師：西村慎太郎氏)



講演会(講師：和崎光太郎氏)



ミニ展示会

●令和4年度

	事業名	開催日	人数
文化財講座	守れ！身近なたからもの～文化財ってなんだろう？～※	3/4	4人
出前講座	身近な文化財について知ろう 会場：①多呂公民館、②中島公民館、③大場公会堂 *夏梅木古墳群16号墳出土飾太刀のレプリカを製作	①2/15、②2/17、 ③2/21	51人
ボランティア養成講座	オリエンテーション 学校資料から地域を知ろう！	11/20	27人

	事業名	開催日	人数
ボランティア 養成講座	民具から地域を知る(講師：外立ますみ氏(トーリ工房)) 民具の調書作成にチャレンジ!(講師：同前)	12/4	23人
	地域資料をいかしたまちづくり(講師：橋本敬之氏(NPO法人伊豆学研究会理事長)) 郷土教室を体験!(講師：郷土資料館ボランティアの会会員)	1/21	24人
	古文書の整理にチャレンジ! 石造物の調査にチャレンジ!	2/18	22人
ボランティ ア・スキル アップ講座	古文書の整理・調査作業(指導者：橋本敬之氏)	10/12・11/9・ 1/11・2/8	のべ 33人
	古文書の剥離作業(指導者：師岡恒夫氏(春鳳堂)・師岡恒平氏(同前))	2/22	9人
	民具の調書作成にチャレンジ!	3/11	15人
ミニ展示会	学校にあるたからもの 会場：徳倉小学校	12/12～12/21	-

- ボランティア新規登録者数：22名
 - 地域資料の把握・調査…民間所在資料：個人宅2件、学校所在資料：小学校7校(美術資料調査)
* 小学校の調査の成果をもとにしてパンフレット『学校の美術品』を発行。
- ※：当初、小学校での開催を予定していたが、コロナ感染症のため、郷土資料館で来館者を対象とする開催形態に変更。



出前講座(中島公民館)

ボランティア養成講座
(講師：外立ますみ氏)ボランティア・スキルアップ講座
(指導者：師岡恒夫氏・師岡恒平氏)

郷土教室の報告

郷土資料館では、楽しみながら学べる体験イベントをボランティアさんと一緒に開催しています。令和5年3月から6月までに行った事業をご紹介します。

日程	郷土教室	内容	参加者
3月4日(土)	江戸時代の三島宿	立版古作り、三島宿の展示ガイド*	34人
5月5日(金祝)	子どもの日体験デー	折り紙のこいのぼり作りとかぶれる兜作り	162人
5月13日(土)	古代のくらし	土器あてクイズ(火おこし・勾玉作りは雨天で中止)	15人
6月3日(土)	江戸時代の三島宿	くずし字クイズ、三島宿の展示ガイド	38人

これからの郷土教室の予定

日程	郷土教室	内容
8月5日(土)	機織り体験	裂き織りの体験(要予約)
	江戸時代の三島宿	立版古作りと三島宿の展示ガイド*
9月2日(土)	紙漉き体験	紙をすいてハガキを作る(協力：三島ゆうすい会)

寄贈・購入資料の紹介

令和5年2月から同年5月までに、次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。お礼申し上げます。

●企画展

寄贈者	資料名	点数
個人	レリーフ(午・亥)、手ぬぐい、ポストカード	28点
商工観光課	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連資料	7点
商工観光課	大河ドラマ関連資料(ポスター、のぼり、市作成グッズほか)	一式
北山敏氏	ポストカード(サイン入含む)、作品集、DVD、雑誌	42点
室伏久司氏	ミノ(御殿場市内で作成されたもの)、ワラジ	2点
水口政美氏	三島市×アメリカ合衆国 ホストタウンフレーム切手(記念切手)	1点
大塚則幸氏	酒瓶、酒樽(陶器製)	10点
個人	三島高等女学校アルバム・卒業証書・賞状、成績通知簿(三島高女・第二尋常小)	6点
久保田きみ江氏	複製三四呂人形(「水辺興談」「里子」「椿(蜜柑)」ほか)	4点
山岡修一氏	三島市民サロン関連資料、わが街三島関連資料、五所平之助関連資料、さりげなくロダンの会関連資料、航空写真	一式

●購入資料

- ▶ 絵葉書「伊豆三島 藍壺瀧上の清流」「伊豆三島 小濱の富士」
 「三嶋大社の池之端」「伊豆三島藍壺の瀧」
 4枚1セット、年代不詳。「三島文盛堂印刷」の印字が確認できます。



◀ 山口余一写『射法小鏡』

明治35年(1902)写、1冊。弓術に関する儀式作法等をまとめた書です。1丁目に「小香山□之記」印が捺され、最終丁に「明治三十五年壬寅正月三日写しおわんぬ / 山口餘一邦香多かす」の奥書と「山口苾印」印を確認できることから、明治時代の政治家

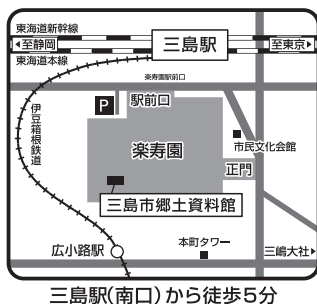
山口余一(1842～1909年)が書写したものとわかります。余一は、大中島(現本町)の苗字帯刀を許された家の出身で、幕末には農兵世話役に任じられ、維新後には葦山中学校長、県民会公選議員、君沢・田方郡書記、伊豆国人民総代等を歴任しました。余一がこういった興味、あるいは必要性から本書の書写に至ったものか、今後の研究が俟たれます。

●令和5年度職員紹介

館長 芦川忠利 職員 古屋秀樹 柿島綾子 笹山曜子 保科桃子 よろしくお願ひします。

郷土資料館のご案内

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
 TEL 055-971-8228 FAX 055-971-6045
 開館時間 午前9時～午後5時(4月～10月)
 午前9時～午後4時30分(11月～3月)
 休館日 毎週月曜日(祝日のときは翌平日)、
 年末年始
 入館料 無料(ただし楽寿園入園料として別途
 300円がかかります。15歳未満は無料、
 学生は学生証提示にて無料。)



郷土資料館だより

Vol.46 No.1(第135号)
 発行日 令和5年7月15日(年3回発行)
 編集 三島市郷土資料館
 発行 三島市教育委員会
 E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
 URL : <https://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>

